

## 「自分の進路について考えること」 すなわち「どう生きるか」を考えること

1年生の皆さん、本校へのご入学おめでとうございます。  
本日、オリエンテーションでお話をさせていただき進路指導係(主任)の坂口です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2020年の春からの新型コロナウイルス感染症の拡大で、国内だけではなく世界全体の社会が混乱に陥りました。多くの方が亡くなり、社会経済活動が麻痺してしまいました。皆さんにとっては、皆さんが中学校に入学した当初、中学校という新たな環境に不安を覚えながらも、更にコロナ禍の不安に直面したわけですから、大変な思いをされてきたことと思います。しかし、中学校での3年間で相当に窮屈であったとしても、皆さんにとってはかけがえのない3年間であったのだと思います。それは、皆さんが中学で大変だったのと同じように高校3年間でコロナ禍中にあった、この3月の本校卒業生の多くが「自分が成長できた3年間だった」と振り返ってくれていたからです。困難に対しては多くの不安はあったでしょうが、コロナ禍であっても、皆で協力して何かを実現することを常に考えていました。のびのびと高校生活を送ることはできなかったかもしれませんが、他と協調して「どう生きるか」を真剣に考えていたように思います。皆さんも同様にコロナ禍で真剣に自分の生き方や方向を考えていたのだらうと思いますし、その進路のひとつである小諸高校での生活は「充実したものでありたい」と願っていることだと思います。

進路指導係では皆さんの進路実現(自己実現)を積極的に応援します。皆さんは「高校に入学できたからひと休み」ではなく、長く続く命の営みの中で、常に今を「どう生きるか」、1年後、2年後、3年後…を「どう生きるか」を考えて欲しいと願っています。その過程の中では必ず悩みや大人との考えの「ずれ」がでてきます。そんな時は塞ぎこまないで、是非気軽に進路指導室を訪ねてください。きっといいアドバイスを受けることができると思います。

### 〔皆さんへ進路指導係から5つのお願い〕

- 新生活に早く慣れる 基本的な生活・学習習慣の確立
- 常に進路、自分の生き方を考えて行動
- 情報収集と変化への対応
- 志高く、「自分がなれるもの」でなく、「なりたい自分」を追求
- 勉強は毎日 2時間はやってみよう

### 「激動の時代を生きる力をつける」

2022年2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻から1年以上が経過しました。現在もなお戦闘が続き、多くの犠牲者がでていられるといわれ、そのような報道に接すると胸がしめつけられる思いです。米ソの冷戦が終結したといわれる1990年代からおよそ30年以上が経った今、世界は新たな緊張状態に陥っています。日本の国内外の環境に目を向ければ、世界情勢や円安がもたらす物価高騰、周辺国の軍事的脅威の高まり、急速に進む少子化、未だ国民生活に少なからず影響を与えている新型コロナウイルス感染症等、不安材料は枚挙にいとまがありません。これらのことは、直接、間接に私たちの生活に関わることで、日常を平穩に過ごす皆さんにも決して無縁なことではなく、皆さんが社会に出る前にその前途を塞ぐ原因となってしまうかもしれません。

このような激動の時代の中で、皆さんが力強く生きていくためには、常に社会の動きに目を向け、今のよりも進化した自分になるための視座を確立しなければなりません。新聞や本を読んだり、インターネット等から情報を収集したりして社会の動向を注視しなければいけません。また、その社会において、適切な判断や行動ができ、豊かな経済生活が営めるような力をつけなければいけません。皆さんが進む道は、激動の時代をつくりだしている困難な社会にそのステージがあり、その進む道につながる本校での進路研究は皆さんが目指す明るい未来、社会への道しるべになると考えているからです。